

## 第二四章 サタン・働きと終局の運命

### I サタンについての誤った概念

サタンについて二つの間違いが広く通用している。そしてこれらはサタン自身が造り出したものと考えられる。

1 多くの人がサタンは実在せず、サタンと思われているのは人間とこの世に内在している悪の原理、もしくは影響力にすぎないと信じている。しかし、聖書はキリストの人格を証明するのと同じくらい、サタンが人格を持っている証拠をあげている。(前章参照)

2 他の人達は、サタンがあらゆる人間の中にある罪の直接の原因であると信じている。しかし、この考えは正しくない。なぜなら、

① サタンはこの世に罪を広めることを目的としていない。

彼は悪者になろうとしたのではなく「いと高き方のようになろう」(イザヤ 14:14)としたのである。彼はこの世を滅ぼすより建て上げることで、文化、道徳、宗教を含むこの世の組織全体の上に君臨するという野心を実現することを目指している。

(Ⅱコリ 11:13-15)

② 人間の罪は、墮落した人間の心から直接生まれると言われているからである。

(創世 6:5、マルコ 7:18-23、ヤコブ 1:13-16)

### II サタンの働き

イザヤ 14:12-17 は、サタンの働きに関係のある多くの箇所のうちの一つにしかすぎない。しかし、この箇所はサタンの最初の、そして最高の目的を明らかにしている。特に二つのことが注目に価する。

1 「いと高き方のようになろう」(14 節)という表現は、サタンの墮落後のすべての活動を支配する最重要な動機を示唆している。アダムとエバに勧めたのがこの目的であった。(創世 3:5) 彼らはそのため神に頼らなくなった。その性質は子孫に受け継がれ、「生まれながらに御怒りを受けるべき子ら」と呼ばれている。(エペソ 2:3、5:6、ロマ 1:18) このサタンの欲望は、キリストから礼拝されたいという野心の中に見られる。(ルカ 4:5-7) 不法の人が聖所にはいり、ほんの短期間だが神として礼拝される時、サタンの最大の欲望は神の許容的意志によって実現されるはずである。

(Ⅱテサ 2:3、4、ダニエル 9:27、マタイ 24:15、黙示 13:4-8)

2 「捕虜たちを家に帰さなかった」(17 節)という表現は、救われていない人々を永遠のさばきから救う能力がサタンにはないことと、現在それらの人々を支配している彼の力を指すように思われる。サタンは人々が暗闇の支配から神の愛する御子の支配の中に移されるのを防ごうとしている。不従順の子らに活力を与え(エペ 2:2)、救われていない者たちの思いをくらませ(Ⅱコリ 4:3、4) 気付かずにいる世界を彼の腕の中に押さえ込んでいる(Ⅰヨハ 5:19)。

サタンはまた、真の神の礼拝のにせものを作り出す。彼は広範囲にわたる宗教組織を推進するであろう。(Ⅰテモ 4:1-3、Ⅱコリ 11:13-15) 彼は聖書に基づいて、キリストを高く上げる。ただし、キリストの流された血により、恵みによって救

われるという教理だけを除き、キリスト教信仰のあらゆる諸要素を含めた宗教体系を推進することができる、ということを忘れてはならない。これらの偽りの諸体系は、キリストの血を通しての神の救いの恵みに対して、それらの教えが示す態度によって試されなければならない。(黙示 12:11) サタンの敵意は明らかに神だけに向けられている。信者は神の性質を宿しているがゆえに攻撃を受ける。その攻撃は「血肉のからだ」においてよりむしろ霊的な面においてなされる。すなわち、祈り、証し、霊的勝利の面で挫折を経験することがありうるということである。

### Ⅲ サタンの運命

聖書にはサタンの起源とともに、その活動と運命も述べられている。サタンに対する5段階のさばきが区別される。

1 サタンの道徳的墮落と神からの離反は聖書には明白に示されている。時間以前の過去のいつであったかは明らかではないが、サタンが天上での地位と、彼の力の大半と、神の御前に出る特権とを失わなかったのは明らかである。(エゼ 28:15、I テモ 3:6)

2 サタンへの完璧なさばきは十字架を通して確かなものとなった。(ヨハネ 12:31、16:11、コロ 2:14、15) しかし、その判決の執行はなお未来のことである。

3 サタンは天国から追放される。来るべき大患難時代の最中に、天上の戦いの結果としてサタンは天から追放される。彼らは終わりの近いのを知り、大いに怒って行動する。(黙示 12:7-12)

4 サタンは底知れぬところに閉じ込められる。千年王国の期間、彼らは底知れぬところに閉じ込められ、人々を惑わすことができなくなる。その後で「しばらくの間」解放される。(黙示 20:3、7)

5 サタンの最後の運命は、千年王国の終結するときに彼に臨む。「しばらくの間」神に公然たる反抗を行った後で、火の池に投げ込まれ、永遠に苦しむのである。(黙示 20:10)